

平成 20 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

5 光化学オキシダント高濃度の発生原因の解明

[総合評価とコメント]

- 光化学オキシダントの高濃度は、アジア大陸からの長距離輸送の影響を含めて、ここ数年注目度が高まっている。従来の知見だけでは説明しきれない状況もあることから、新たな研究課題として設定することは、適切な対応であると評価できる。
計画内容として、VOC の成分分布に着目することは特意的を射ており、特に神奈川県は石油化学系の発生源を多く有することから、この研究課題は地域固有の問題を扱うテーマでもある。従来の研究で十分に解明されなかった点が少しでも明らかになることが期待される。
- 光化学オキシダント発生要因の解明は、これによる健康被害の発生抑制対策を考える上で有用である。特に、原因物質の一つである VOC のうち、光化学オキシダントの生成に対する寄与の大きい物質種やその発生源が特定されれば、効果的な対策が講じられるようになると考えられる。
- 県民の生活に影響が大きい課題である。全国の自治体でも同様の研究・調査が進められているので、連携やデータの共有化を模索してはどうか。
- 近年、光化学オキシダント注意報の発令回数が増加の傾向にあるとの結果は、丹沢でのブナ林衰退の原因とも絡んで、憂慮すべき問題である。研究の方向性はこれでよいと思われるが、従来から光化学オキシダント発生メカニズムの解明の困難な点は、原因物質の発生源が遠く離れているケースが多いことにあった。原因物質の究明に当たっては、中国からの移流等も含めて、幅広いサーベイが必要と考えられる。
- 大気環境における挙動解析には地域特性の考慮は不可欠である。本研究に関わる課題の重要性はすでにこれまでも少なからず、各自治体において議論されてきている。従前の取り纏め結果を十分に参照しながら、何に優先性を置くかを見極めてからの遂行が望まれる。限られた時間およびスタッフにより何に着目するかの検討が不可欠と考える。
VOCs の挙動把握は、それ自体で意義を有する。光化学オキシダントとの関わりが明確になれば、さらに優れた成果と位置付けられる。

(数値的評価)

★評価者 6 名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉				
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (3人)	4 (3人)	3 (0人)	2 (0人)	1 (0人)
	○優先性	5 (3人)	4 (2人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (4人)	4 (0人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)
	○計画の妥当性	5 (1人)	4 (3人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)

※ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)